それから、287号線からあやめ公園まで行く通りですけども、これは街路樹として管理しているのか、いわゆる何々並木とか何々通りってあるんですよね。例えば仙台の定禅寺通りのケヤキ並木とか、そういうふうな捉え方をしていいのか、どっちなんですかね。そこ、市長いかがですか。

○小関勝助議長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　ケヤキ並木というんですかね、それで何であんな木したんだという、今回、町田議員のご質問いただいたもんですから、担当課と関係する課と集まって一般質問の打ち合わせをさせていただいてたんですが、なしてあんがなどこさしたなやと。あそこは緑町と横町にかかわって、十日町も一部、十日町は入らないのかな、舟場のほうでは危ないからって切らせてもらったわけですね、あれ県道のほうですけども。そしたら、切ったら切ったですごくお叱りを受けたわけですけども、地元の人たちはとにかく危険だし管理も大変だということで切ったんですが、なぜあんがな木植えたんやと聞いたら、その当時はできるだけ早く成長する木がいいということだったんだそうですね。今だと成長過ぎて困るわけですね。切るにもすごくお金がかかるということで。

あとは町田議員からも以前からも指摘あった、例えば百間道路の並木なんかは、中が空洞化なってね、折れて事故まで起きたわけですけども、とにかく街路樹の剪定というのは非常に難しいと。担当課は、これからは街路樹は植えないって、植えたくないって、こう言うわけですね。それはなぜかというと、管理費がかかる。それはおかしいだろうと私は言ったわけですよ。だけど、緑は長井はいっぱいあっからいいんだと、道路なんかは緑なくていいんだと言うんですが、果たしてどうでしょうか。私は必要だろうと。ですから、そこんところがですね、さっきの管理も含めてですが、やっぱり私ども行革をしてきたもんですから、何かあるとすぐ費用対効果と、こういうようになるわけですね。あと管理費がかかる。そのとおりなんですが、それと我々市民から見て本当にほっとする、あるいは、外から来た人が緑が美しくてというのはやっぱり道路沿いなんですよね。そんなことで考えてまして、あそこが並木というんじゃなくて、できるだけ雰囲気のいいまちにしたかったんでしょうけども、結果としては大木の並木になってしまったというのが実態だと思います。

○小関勝助議長　10番、町田義昭議員。

○１０番　町田義昭議員　一概にね、こうしろああしろと言うつもりはさらさらないんですけれども、やはり計画性を持って、こういう方向に行くんだとか、こういう公園をつくりたいんだというようなことを市民の皆さんに発信していただければ、市民の皆さんも10年後はこういう公園になるなとか、また街路樹もこういうふうになるなというようなことで楽しみにしているという部分も出てくると思いますので、そんなまちづくりを期待させていただいて質問を終わりたいと思います。ありがとうございます。

赤間桊広議員の質問

○小関勝助議長　次に、順位７番、議席番号１番、赤間桊広議員。

（１番赤間桊広議員登壇）

○１番　赤間桊広議員　公明党の赤間桊広でございます。通告書に従いまして質問をさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

昨年度、３月と６月の定例会にもご提言をさせていただきました。実施すること、ご理解が得られないまま１年が過ぎてしまいました。まことに残念であり、私の非力さを痛感しております。

先日、私の先輩ご夫婦が昨年末、そしてことしの春と、胃がんが原因で亡くなってしまいました。まことに残念、無念と言うしかありません。もう少しピロリ菌検査のことがわかっていたらと悔やまれます。市民の皆様、関係各位の皆様にもご理解いただくべき再度の質問をさせていただきます。

先日、さくらんぼテレビにて、酒田市において山形県で初めてピロリ菌検査が胃がん検診時に行われることになりましたとの報道がなされました。うらやましく、若干悔しさを覚えずにはいられませんでした。

皆様ご存じのように、毎年およそ12万人が胃がんを発症し、約５万人の方が亡くなっております。胃がんによる志望者数はおよそ40年間横ばいの状態で、政府の胃がん対策は、現在必ずしも功を奏しているとは言えない状況であります。

胃がんには特徴がありまして、世界で亡くなる人の56％が日本、韓国、中国に集中しており、東アジアの地方病と言われております。胃がんとピロリ菌の関係は長年研究されてきましたが、1994年、20年前ですが、ＷＨＯは疫学的調査から、ピロリ菌を確実な発がん物質と認定いたしました。また、中国で行われた大規模な比較臨床試験で、ピロリ菌除菌による胃がん予防効果が確認されました。日本でも幾つかの調査が行われ、除菌により胃がんの発生率が３分の１に抑制されたことが発表されております。ピロリ菌の感染は生まれてから10歳ぐらいまでに感染し、現在の感染率は、10代では10％以下に対して、50代では約50％、60代以上では80％の方が感染者と言われております。この胃がんリスク検査の検査方法は、採血による血液検査法であり、胃がんそのものを診断するものではなく、胃がんになりやすいかどうかを診断し、胃がん発症リスクの高い人に対してピロリ菌の除菌や定期的な精密検査を勧めるものであります。

平成23年度の資料ですが、当長井市で100人の方ががんで亡くなっております。胃がんで亡くなった方が19人と、一番多いことが示されております。

５月20日付の公明新聞に、公明党の秋野公造参議院議員と、胃がんの主な原因とされるヘリコバクター・ピロリ、ピロリ菌の発見で2005年にノーベル生理学・医学賞を受賞したバリー・マーシャル博士と都内で懇談し、これには東京大学医科学研究所の岩本教授が同席した旨、そして席上、秋野氏は、公明党が北海道大学医学部の浅香正博特任教授と連携してピロリ菌治療の保険適用拡大に取り組んだ結果、昨年２月に適用の範囲が慢性胃炎まで拡大されたことが記事として紹介されておりました。さらに、日付が前後しますが、昨年３月25日付、山形新聞の「くらし」欄に、新聞の半分近くを割き、「胃がん撲滅へ画期的」と大きな見出しで、胃がんの主原因とわかってきたヘリコバクター・ピロリ、ピロリ菌、これまで保険を使ったピロリ菌の除菌は胃潰瘍と十二指腸潰瘍に限られていたが、２月下旬から新たに慢性胃炎にも拡大された。これにより除菌が一気に進めば日本から胃がんがなくなる日が来るかもしれないと、北海道大学医学部の浅香正博特任教授の話と写真も紹介されておりました。

市長の施政方針にありますように、市民の安心・安全、健康と財産を守る、そして健康長寿を目標として市政が行われておりますことから、制度として導入することをご提案いたします。

そこで、今述べたことに関連して、以下３点の質問をさせていただきます。

本市において、がん検診率は当初の目標に対してどのような水準になっていますか。２番目として、検診率アップにどのような取り組みを行っていますか。３番目として、健康診断の個別診断、オプション診断の種類と各受診者数と各受診料金をお尋ねいたします。

次の質問ですが、教育長にお伺いいたします。学校におけるがん教育の現状についてであります。

がんに関する正しい知識を得ることが、がん医療を受ける上で基本であると言われています。がん治療の医療技術は、この30年で大きく変わり、進歩してきました。昔はがんになると助からないと思われていた病気ですが、今は治る病気になり、今度は治る人と治らない人や情報の格差などの問題が起きています。つまり、がんになっているにもかかわらず、正しい知識、認識がないため適切な治療が受けられない事態を招いている人がふえている現状であります。それを防ぐために、子供のころにがんの正しい知識を得ることの必要性が叫ばれています。

子供たちの周りでも親族の方ががんで亡くなったり、がんは子供たちの身近な問題となっているにもかかわらず、学校における保健の授業では、体系化されたがん教育はほとんどされてないと伺いました。がん教育は、将来のある子供たちのためでもあり、また、子供たちの親はがんが発症しやすい年代になるため、子供たちから親に検診を受けているかと言葉があれば、検診率アップにもつながっていくものと思います。義務教育の時代にがんの検診や予防の大切さを知ることが、がん対策の最大の啓発活動になると思います。

この場をおかりして、東京都豊島区のがん教育の先進的な取り組みについてご紹介させていただきたいと思います。

豊島区教育委員会では、平成24年度から公立小・中学校で、健康教育の一環として独自のがん教育プログラムを開発し、がんに関する教育を開始しております。小学６年生、中学３年生を対象に、保健体育の授業の中で年に１こま以上行っております。さらに、豊島区独自の教材、ＣＤを作成し、電子黒板などを利用したわかりやすい授業が行われており、全国初となる教員用指導の手引も作成されて、どこの学校でもこの教材と手引があれば一定レベルの授業が可能であるそうであります。

学ぶテーマとしては、「みんなでがんのことをもっと知ろう」であり、がんってどんな病気、何が原因、手術が必要な病気、予防方法はないの、このように具体的な項目について学んで、がんを通じて生命の大切さを教えることを目指しております。

がんに関する教育の実施の結果、豊島区におけるがん検診の受診率は、教育がスタートする前は12％程度に対して、教育後、16.5％に上昇したそうであります。その要因には、子供たちががんについて深く知ることによって、親へがん検診の受診を促しているとのこと。親は子供が言うと耳を傾ける。これが大きな力になっているとのこと。本市でのがん教育の現状と教育委員会として豊島区で行われているような医療専門家や闘病経験者を招いての授業や教職員への研修など実施するお考えはないかお伺いいたします。

次に、最後ですが、老朽化した公共施設の改修スケジュールについてであります。

先日の産業・建設常任委員会協議会で説明がありました。まち・住まい整備課の所管する都市公園などで老朽化した設備などをＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄの４段階に仕分けして、Ｄ評価については危険度が高く、37件ほどあり、今すぐ改修とか使用を控えるとありました。現在、長井市には、第２庁舎を初め市庁舎、市民会館、図書館、分館の体育館など、築後50年を経過したものが多数存在します。今、国の後押しで、緊急防災・減災事業、地方単独事業として東日本大震災を教訓として全国的に緊急に実施する必要性が高く、即効性のある防災・減災のために自治体が国の補助金を受けずに単独で実施する事業、対象となる建設事業全額を借金で賄うことができ、その返済額の70％を国が充当するとしています。

先日、５月14日付の公明新聞に紹介ありました。この国の後押しで新たに建てかえられることになった高畠町の消防署や耐震補強工事が行われる蔵王温泉出張所の消防署が紹介されておりました。返済額の70％を国が充当するとした大変有利な補助事業を長井市でも利用し、進めていくべきと考えます。ただし、これには2016年までの事業であります。市長のご所見をお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○小関勝助議長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　赤間**桊**広議員のご質問にお答えいたします。私のほうで大きく２点ほどご質問いただきましたので、お答え申し上げます。

まず最初に、長井市における健康診断への取り組みということで、赤間議員からは昨年度も特にピロリ菌のことについてご提言があったにもかかわらず、取り組んでいただけないので大変悔しい思いをされたということでの、再度そういったことも含めたご提言でございます。

長井市における健康診断の取り組みといたしましては、国民健康保険被保険者に対して特定健診、保健指導を実施しております。また、家庭、学校、職場、地域、医療機関など、関係団体との連携、協力により、検診による疾病の早期発見と疾病予防指導の取り組みを基本に、生活習慣病対策を行ってきたところです。

特定健診事業につきましては、今年度から料金を無料化にいたしまして受診しやすい環境を整えるとともに、健診日数の確保や土曜日、健診の日数をふやすなどとともに、人間ドックや個別健診も実施し、また、特定健診未受診者対策といたしまして引き続き受診勧奨を奨励し、受診率の向上を目指しているところです。

本市の独自施策といたしましては、20代、30代の国民健康保険被保険者若年者層の健康診査を引き続き実施しております。がん検診については定期的な検診が基本でございまして、早期発見、早期治療が重要であるため、特定健診とあわせ受診できるようにしております。このたびの補正により、乳がん、子宮頸がん検診未受診者への受診勧奨や、その際に未受診理由の把握を行うための返信用のはがきを同封いたしまして、今後の未受診者対策に活用していくように考えております。

特定の年齢者に対する女性特有のがん検診や肝炎ウイルス検診、大腸がん検診についても引き続き実施しております。また、若年の乳がん検診と前立がん検診費用について、一部負担軽減を図っているところでございます。後ほど健康課長からもあるかと思いますが、ピロリ菌の検査については、これはオプションとして検診のとき追加を今年度からいたしておりますので、これらも赤間議員からのご提言を受けてことしから、これはあくまでもオプションでございます。というのは、ピロリ菌があるとわかっただけでは、疑いがあるといっただけではこれだめなもんですから、その後胃カメラを飲んでいただいてさらに検診などをしなきゃいけないということもあって、やはりご本人のしっかりとした意思がないとこれはだめだろうということで、オプションでの追加をことしからさせていただいております。

また、がんに対しては、これは女性の皆様からのいろんなご提言もあって、昨年度から乳がんの検診を40歳以上というふうにしておりましたものを35歳まで下げておるなど、いろいろ市民の皆様、あるいは有識者、各団体の皆様のお声を反映させて、少しでも市民の皆様の健康を図るべく努力しております。

また、今年度第５次総合計画のスタートに当たりまして、まず第一に掲げておりますのは元気な人づくり戦略ということでございますので、健康が第一ということから保健師の増員を図ったところであり、なお一層の市民の健康増進に

努力してまいりたいというふうに思います。

次に、２点目の老朽化した公共施設の改修スケジュールについてということでございます。

市の公共施設整備計画の策定に向けて、昨年10月に公共施設整備検討委員会を設置しているということはご存じのとおりだというふうに思いますが、この委員会は、委員長に副市長、副委員長に総務課長のほか関係課長11名で構成され、事務局としては公共施設整備技術主幹、これは財政課内に置かれてるわけですが、中心に総務課、財政課、企画調整課の３課体制として、今鋭意検討しているところでございます。５月に開催されました第３回委員会では、スケジュールを含めた今後の進め方等について検討しており、現在のところ、早ければ庁内検討委員会による検討をこの９月までに行いまして、その後10月に外部委員会による検討等を進めるという予定であるというふうに聞いております。現在は検討の段階前段となります施設台帳の整備に向けて資料の収集整備を進めており、並行して施設評価、優先度の選定基準等の検討を行っているようでございます。これは多分に技術的な能力を持った職員がきちっと把握していかなきゃいけないということから主幹を置いたところでございます。

計画策定の参考となる総務省の指針では、今後人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことを踏まえ、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点で更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行うことにより財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な設置を実現することが必要とされております。今後の検討過程も含め、実際に事業を執行する際には、こうした趣旨も踏まえ、可能な限り有利な制度、整備手法を活用し、後年度負担を軽減していくことが必要と考えております。

東日本大震災を契機に設置されました地域の防災力を強化するための施設整備に活用が可能な緊急防災・減災事業債については、地方公共団体が引き続き喫緊の課題である防災・減災対策に取り組んでいけるよう、平成26年度以降も平成28年度まで地方財政措置が継続されておりまして、平成29年度以降の取り扱いについては事業の実施状況も踏まえて検討されることとしておりますが、今後も各団体から多くの要望が出されると思われ、自主的に同様の措置が継続されるのではないかと考えております。

なお、長井市では残念ながら地域防災センター等々は、消防関係のほうでは施設そのものは単独で建ててしまいましたんで、これはできないわけですが、西置賜行政組合として防災無線のデジタル化を、この緊急防災・減災対策事業債を活用して行っております。また、長井市で行ったのは移動系のデジタル無線の設置についてはこの事業債を使っておりますし、今回の防災のための地域コミュニティーのＦＭ、コミュニティーＦＭラジオ等々の設備についてもこういったものが使えるということで、活用する予定でございます。

また、私どもでは先ほど言いましたように消防防災関係はもう設置済みですが、白鷹町さん、飯豊町さんは分署の整備をこちらの対策債を使ってやるということで、私どももこれは大変有利だということで、できるだけこれを使えないかということで、もちろんいろんなところで検討しておりまして、これらについて今後も有効に使うべく考えております。

さらに、コミュニティーＦＭでちょっと難聴地域があるということで、それらについては対策もするわけですけども、県のほうから進められてるのは一部同報系も活用したらどうだということで、同報系についてはいわゆる外に鉄柱を立てて、そこからスピーカーで流すってやつですが、これは長井市の場合平地ですし、あんまり活用としては方法余りないんじゃないかと

いうことで考えておりましたが、例えば伊佐沢地区でＦＭラジオが少し聞きにくい地域があるといった場合、部分的でもそういったものが使えるということで今、検討、研究しておりますが、そういったときにもこの対策債を使えるということでございますので、そのようなことで今後とも十分な検討の上、活用してまいりたいというふうに考えております。私のほうからは以上でございます。

○小関勝助議長　加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長　赤間**桊**広議員のご質問にお答えいたします。

学校におけるがん教育の現状については、昨年にもご提言いただきました。委員のご提言の中で、学校においてがん教育が体系化された指導が行われていないというような、そういうお話がありましたが、学習指導要領の中で保健体育の授業、５、６年生、そして中学は３年生が中心になりますが、疾病と予防ということ、さらには生活習慣とのかかわりで健康教育の一環として、がんについても、心臓病とか、それから、その他糖尿病とか高血圧とか生活習慣病の関連の中でがんという病気についても学習することになっております。長井市においてもそのような流れの中で、保健体育の授業の中で行われているということをまずご理解いただければありがたいなというふうに思います。

具体的には、たばこを長く吸っていると肺がんや心臓病になりやすいこと、あるいは、たばこを吸い始めた年齢が早いほど肺がんになる死亡率が高くなることなどを学ぶというふうになっております。中学校では生活習慣病の予防の授業の中で、日本の３大死亡原因であるがん、心臓病、脳卒中や、それらの病気と深くかかわる糖尿病、高血圧症、高脂血症の発症や進行には生活習慣が影響していることなどを学んでおります。これらを予防するためには、喫煙をしない、定期的に運動する、飲酒は適量を守る、１日七、八時間の睡眠をとる、適正体重を維持する、朝食を食べる、間食をしないといった７つの健康習慣を心がけること、また、生活習慣病の多くが沈黙の病気と言われていることから、早期発見、早期治療が大切であること、その際には当然、検診の重要性ということについても学んでおります。また、40歳以上の成人に対して、内臓脂肪に着目した健康診断が義務づけられていることなども学んでおります。

外部の講師を招いての子供への指導ということなどもご提言いただきました。本市では、中学校、両方の中学校において薬物乱用防止教室というのを毎年やっております。外部の講師を招いております。その中では、がんと直接、あるいは間接的に結びつくたばこの害、それからアルコールの害について、がん予防と関連させた実生活に即した学習をしております。これは今後も充実してまいりたいというふうに考えております。

委員からご紹介いただきました豊島区のがん教育の状況について、私も調べてみました。内容については共通している部分がかなりあるわけでありますが、すぐれている実践だなと思ったのが、予防するために自分でできることは何か、それからうちの人に対してできることは何か、そして家族で話題にしようという、そういう指導をしている点が大変参考になりました。また、教材としてもＣＤやパワーポイントなどを独自に作成し活用しているということで、これによってどの学校でも共通したある程度水準以上の授業ができるというところが大変すばらしいなと思ったところであります。これについては、ぜひ校長会等を通じてこの教材等を紹介してまいりたいというふうに考えております。保健体育の研修会などもございますので、その折に話題にしていただければなというふうに思っております。

規則正しい生活習慣ががんを含めた将来の生

活習慣病を予防するということがありますので、それとともに、子供たちの成長に応じて心と体の健康にそういったものが大事なこと、さらに、健康診断の受診率向上ということも将来大事なことでありますので、大人の啓発とあわせて小さいころからの意識づけという点で、そこを結びつけた豊島区の取り組みに学びながら実践を進めてまいりたいというふうに思っております。

あわせて、長井市で独自に進めております生活リズムの改善事業、そういったものについても将来の生活習慣病の改善に結びつくのかなと。早寝、早起き、朝ご飯が子供だけではできるものでありませんので、ＰＴＡとの協働で進める取り組みであります。こういったことが長井市民の健康づくりに役立っていくのかなと、その取り組みについても期待しているところであります。以上であります。

○小関勝助議長　梅津明夫健康課長。

○梅津明夫健康課長　赤間**桊**広議員のご質問にお答えいたします。

問い１の長井市における健康診断への取り組みについての（１）ピロリ菌検査で胃がん予防の推進をというご質問でございますが、ピロリ菌の検査については先ほど市長からもご答弁あったように、新たに今年度から人間ドックのオプション項目として、南陽検診センターさんで受診していただけるように取り組みを始めております。この検査は、赤間議員おっしゃるとおり、がんになっているかの検査ではなく、がんの発症リスクを判定する検査でありますので、バリウムによる胃がん検診とあわせて受けていただくということを前提としております。今年度、オプション検診として委託先の南陽検診センターとしても初めての試みですので、どのような成果、結果が出るか検証した上で、その後、一般の健診等でやれるかどうかというふうなことも検討していかなければならないというふうなことでこのようなやり方を初めて取り組んだところでございます。

なお、検診でピロリ菌が検出された場合、医療保険の制度上、医療機関において内視鏡などによる検査を改めて受けていただいて、その上でないと除菌治療が受けられないというふうになってるようでございますので、受診される方にはそういったご注意を説明させていただいた上で受診していただくというふうになっております。

また、陽性者と判定されて除菌治療を受けられ、除菌に成功された方としても、胃がんのリスクは下がるというふうなことですが、がんにならないということではありませんので、定期的に胃がん検診を受診していただくということが重要となっておりまして、ＡＢＣ検診が胃がん検診にそっくり置きかえられるというふうなものではないというふうに考えております。

テレビなどでピロリ菌の有無が胃がんリスクに影響しているなんていう、いろいろありますので、そういったことは一般の方も知られてきているというふうに思いますけれども、先ほど申し上げたように実際の除菌の方法とか検査の方法とかについては余り知られてないんじゃないかなというふうに思います。内視鏡検査が必須だなんていうことは余り知られてないんじゃないかなというふうに思いますので、今後周知とかも含めていろいろ課題がございまして、ピロリ菌があると判明した後に医療機関でいろいろ精密検査受けていただくにも、医療機関の協力がないとちょっとなかなか受け入れてもらえる相手先がないとできないというふうなこともありまして、急にどおんと大量の検査というふうになりますとなかなかいっぱいいっぱいというか、できなくなるというふうなこともありますので、徐々にやっぱりやっていかないと難しいなというふうに考えております。

それから、（２）の本市においてがん検診率は当初の目標値に対してどのような水準になっ

ているかということでございますが、本市のがん検診率の目標値については、平成20年３月に策定されております山形県がん対策推進計画で示された数値を長井市も採用しているところでございますが、胃がん、大腸がん、乳がんについては60％、肺がん、子宮頸がん検診は50％を目標値としております。全国での目標値は、全がん50％とされております。その中では、胃がん、肺がん、大腸がんについては、50％とは言いながら当面40％を目標にされてるというふうなところでございます。

県内比較において、長井市はがん検診の受診率が高いとは言えない状況なんですけれども、山形県の平成23年度のがん検診の受診率につきましては、子宮頸がん検診を除いて全国１位となっておりまして、子宮がん検診でも全国で２番目と、非常に受診率の高い県というふうになっております。その中で長井市の率を申し上げますと、平成25年度におけるがん検診の受診率でございますが、胃がん検診にあっては21.6％ということで、前年比1.5％増、大腸がんにつきましては30.2％ということで、前年度4.6％、非常にここは上がっております。子宮頸がん検診については29.8％ということで、こちら残念ながら0.2％ほどダウンしております。乳がん検診が37.1％、0.5％の増、肺がん検診が34％というふうなことで、これは前年度と全く同じになっております。山形県の平均の受診率を申し上げますが、胃がんについては、これは25年度がまだ出ておりません、24年度の数値でございますが、胃がん検診が27.7％、大腸がんにつきましては36.9％、子宮頸がん検診に関しましては34.3％、乳がん検診につきましては36％、肺がん検診につきましては38.6％というふうな数値になっております。

次に、（３）の検診率アップにどのような取り組みを行っているかというふうなことでございますが、まず、市報、保健カレンダーということで、長井市独自の保健カレンダーで、日程等をカレンダーをめくることでわかるようにというふうなことで全戸に配布をしております。

あと、個別検診ということで、いわゆる集団とはまた別に、市内の医療機関の中で、一部なんですが、そこでも個別で検診ができるというふうなことで、そちらも行っております。そのほかに、レディース検診、女性特有の検診を専門の日程をとりましてそちらもやっている。あと、あわせて人間ドック等も行っております。

それから、申し込みのない方につきましても、検診を受けられるようにというふうなことで受診勧奨の通知を行っておりまして、それから、検診費用の軽減ということで、先ほどありましたが特定健診については無料化、あと胃がん検診については料金の軽減というふうなこと、それから、先ほど大腸がんの受診率がぐんとアップしておりますが、申し込みのない方の検診用の封入に大腸がんの検査用のキットをあえて同封しまして、申し込みのない方でも受けようかなというふうな、そういう気にさせるような取り組みなども行っております。それから、今年度につきましてはコール・リコールというふうなことで、再受診の勧奨というようなことでことし補正予算を今お願いしているわけですが、そういったことも取り組んで、その中に簡易なアンケートというようなことで、どうして検診を受けないのか、その理由なども尋ねるというか、それをいただいて今後の受診率上昇に役立てていきたいというふうな取り組み。それから、土曜日検診については昨年３日間だけでしたが、ことしは４日間実施。それから、特定健診とがん検診の同時実施は、先ほども申し上げましたがそういったやり方。あと、それから大腸がんという話、先ほども申し上げましたが、そのキットだけ、大腸がんの検診だけ保健センターに土曜日曜に検査結果のものを持ってきていただいて受け付けをすると。平日だと保健センター

になかなか忙しくて来れない方でも土日に保健センターで受け付けをして、取りまとめて検査に回すというふうなやり方、そういったいろいろな先進的な事例をとっているところいろいろございますが、そういったところをさまざま研究しながら取り入れて、検診率向上に努めているというふうな状況でございます。

それから、（４）ですが、健康診断の個別診断、オプション診断の種類と各受診者数、各診断料金というふうなことでございますが、ちょっと申し上げます。総合健診の際のオプション検診につきましては３つだけですが、腹部超音波検診、これが4,320円になっておりまして、これの受診者数ですが、22年度は475人、23年度574人、24年度567人というふうになっております。それから、前立腺がん検診の料金は2,376円でありまして、こちらの受診者数については22年度317人、23年度331人、24年度394人というふうになっております。それから、もう一つは骨密度検診というふうなことで、こちらに関しては女性が主体ですけれども、その中でも40歳から５歳刻みで70歳までの女性の方には、無料で検診を受けていただいております。５歳刻み以外の方については自費でなりますが、864円で受けていただくようにしております。それから、今申し上げたのは総合健診のオプションですけれども、人間ドックにおけるオプションというふうなことで、同じように腹部超音波検査、料金は先ほどと同じ4,320円、前立腺がん検診が同じく2,376円、骨密度検診も同じく864円というふうなことです。そのほかに人間ドックだけで受けられるオプションということで、心筋疲労度検査ということで、こちら血液検査なんですが、料金が1,512円、それから、肺機能検査ということで、肺活量とかそういった検査ですが691円、それから、６番の尿中アルブミン検査ということで、糖尿初期の腎臓の検査ですが993円、それから、ことしから取り組んだ胃がんリスク検診ということで、ＡＢＣ検診ですが、こちらが1,728円というふうなことで設定をしております。

オプション検診の受診者数について把握しているのは、さきに申し上げた腹部超音波検診と前立腺がん検診だけで、そのほかの検診についてはちょっと受診者数を把握しておりませんのでちょっと不明ではございますが、私のほうからは以上お答え申し上げます。

○小関勝助議長　１番、赤間**桊**広議員。

○１番　赤間桊広議員　ご丁寧な答弁、ありがとうございました。

まずもってピロリ菌検査のことでございますが、私としては、本来ならば全額無料でしていただきたいということでございますが、昨年度から比べますと一歩進んだのかなというふうに考えております。本当にありがとうございます。ただ、このピロリ菌検査というのが、先ほど申し上げましたとおり12万人の方が胃がんを発症して５万人が亡くなってるというような現実があるわけですので、ぜひ、何というんですかね、無料とはいかなくてもワンコインぐらいでできるぐらいの検査をしていただければなというふうに思います。

酒田市の事例なんかを先ほどご紹介したわけでございますが、酒田市では何か医療機関とやっぱり提携かなり進んでおりまして、ほとんど、何というんですか、検診に前向きっていうんですか、やる限りはとことんまでやるというようなことでございまして、30カ所くらいの医療機関が協力、専門医療機関ということで酒田ないし近くの周りの庄内町、遊佐町まで手を伸ばされて検診ができるというようなことでございます。

先ほど来申し上げておりますように、本当に５万人も亡くなっていると。長井市の方も統計的というか、わかってる範囲で19人と先ほど申し上げたんですけれども、本当に多い、何とい

うんですか、病気になっておるわけですので、ぜひ、浅香教授が申されたとおり将来胃がんで亡くなる人がいなくなるというようなことで、長井でも先進的に頑張ってこういう検査をしていただけたらなというふうに考えております。

まだまだ、私がここで申し上げても、ピロリ菌ということに関して市民の方はほとんど知らない方が多いんじゃないかなというふうに思っているところです。ここで皆様に、市長なり健康課長にご答弁いただいたことをもとに、さらに市民の皆様にこういうものがあるんだということを知っていただく意味でも大変重要なことではないかなというふうに思います。そして、今後ますます検診率を上げていっていただきたいというふうに考えておるところです。

先ほど健康課長から数値で長井市の現状というのをお示しいただいたわけですけれども、こういうふうになっているのはどういうふうな原因であるかという、何というか、追跡調査なんかはされたことあるでしょうか、ちょっとお聞かせ願いたいんですが。

○小関勝助議長　梅津明夫健康課長。

○梅津明夫健康課長　特に追跡調査ということはやったことはございませんけれども、一般的には、既に医療機関で受診しているから大丈夫だというふうなお答えをされることを時々お聞きします。ただ、医療機関で特定健診で健診するような項目全てを受けられてるわけではないので、ぜひ特定健診を受けてくださいというふうにこちらでも誘導してはおりますけれども、なかなかそういったことで、お医者さんにかかってるからいいんだというふうなお答えをされる方が多いように感じられます。

それから、やはり忙しいと、大変仕事上忙しくて、なかなか休んで検診には行けないというふうなお答えもあったようなので、先ほども申し上げましたが、土曜日検診というふうなこともちょっと取り入れて、土曜日だけでいいのかというふうにはあるんですが、南陽の検診センターさんはやっぱり日曜日が休みというふうなこともありまして、日曜日まではなかなか広げられないというふうな事情もございますが、土曜日を拡大しているところでございます。主にそこら辺が受診勧奨などでお聞きする受診しない理由というふうなものとなっているようでございます。

○小関勝助議長　１番、赤間桊広議員。

○１番　赤間桊広議員　ありがとうございます。

全くそのとおりかなというふうに思うところでございます。これ長井市の状況じゃないんですけれども、なぜ検診受けないかということはやっぱり忙しくて受診できなかった、これが大体49人。これから受診するつもりだった、これも41％ぐらいですか。産婦人科には行きづらい、これちょっと子宮がんのことですからあれですけども、どこで受診したらいいかわからない、昨年度受診したからとか、がんが見つかるのが怖いからというようなこととか、クーポン券をなくしたなんていうのもありまして、がん検診の必要性を感じないからという人も、そんな方もいらっしゃるんですよね。私も拝見してびっくりしたところなんですけれども、長井市の検診率は先ほどご紹介いただいたのでわかりましたけれども、胃がんに対して山形県内で見れば33位と、35市町村あった中で。大腸がんが34位、子宮がんが27位、乳がんが25位、肺がんが27位というように、胃がん、大腸がんについては本当にブービー賞というんですか、本当に後ろから数えても一、二番だということで、本当にこれ問題だなというふうに考えてるところでございます。

長井市の総合健診日程を見ますと、５月26日から12月の５日まで29回あるということで、職員の皆様、それから関係者の皆様に大変ご努力されているんだなというふうに思うところでございます。ただ、恐らく忙しくて勧奨まで手が

回らないんじゃねえかななんていうふうに私個人では思ってるんですけれども、ぜひ人員の増員とか、また予算措置をもっと増額をして、勧奨、何で受けないかというようなことをもっと受けていくようなコール・リコールなんかをどんどんとやっていくべきと考えますけれども、その辺、先ほど市長は１人増員させていただいたといっても、事務的なことじゃなくて保健師さんを増員したということでありましたので、もっと事務的、ソフト面で頑張っていただける人の増員なんかも考えていくべきと私は思うんですけれども、市長はどのようにお考えですか。

○小関勝助議長　内谷重治市長。

○内谷重治市長　赤間議員のおっしゃるとおり、私も大変受診率が上がらないので、医師会の皆様、歯科医師会の皆様との定期的な会合があるわけですけども、その中でも非常に数字的には厳しいということで、大体三、四年前ぐらいからとにかく検診受診率を上げるようにということで健康課のほうにはお願いしてますが、大分問題意識を持っていただいて努力はされてると思います。やはり議員おっしゃるとおり、原因は何なのかというのを、こうではないでしょうかではなくて、もう少しね、やっぱり把握していかなきゃいけないんじゃないかなと。あとは勧奨といいますかね、受診の、これも保健師さんが必ずしもする必要がないわけで、健康課の職員ということでそういった体制をとらなきゃいけないんでしょうけれども、人員体制が厳しいのかということなども余り現場から上がってこないんですね。ですから、そのところをもう一度、やはり赤間議員おっしゃるとおりですので、必要な場合には、これ健康第一でいこうと、元気な人づくり戦略が第一に来てるわけですから、健康課は重要なんだぞということで、それは健康課だけじゃなくて全ての関連があるわけですけども、ぜひ現場のほうともよく話ししながら、必要な場合は、ことしは定時補助職員等々で対応するしかないと思いますが、受診率を上げて少しでも多くの市民の皆様の健康が維持できるような努力をしなきゃいけないというふうに思います。

○小関勝助議長　１番、赤間**桊**広議員。

○１番　赤間桊広議員　ありがとうございました。

あと残すところ２分以下となってきましたので、質問ではございませんので、私の申し上げたいことを申し上げさせていただきたいと思います。

健康課の皆様、本当にいろいろご努力していただいているというのは私も見えます。やっぱり中身的にもう少し考えていかなきゃいけないというのは、ハード面、ソフト面まだまだあるというふうに考えています。

それから、何というんですか、遠隔地から来られる方に対しては、この７月から市営バスなんかも運行されますので、検診に来るときは無料にするとか、そういったことも一つの考えじゃないかなというふうに考えているところでございます。ぜひ検診率向上にご努力いただきたいと思います。

それから、教育長に先ほどご丁寧な答弁ありがとうございました。本当に教育全般に対して日ごろからご努力、ご尽力いただいていることに感謝申し上げます。そして、検診率を上げるにはやはり子供の力というのがどうしても必要だと思いますので、ぜひご指導をよろしくお願い申し上げたいと思います。

私の質問は以上で終わります。ありがとうございました。

○小関勝助議長　ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後１時といたします。

午前１１時５９分　休憩
午後　１時００分　再開